

水稻収穫量調査の見直しについて（ふるい目幅）

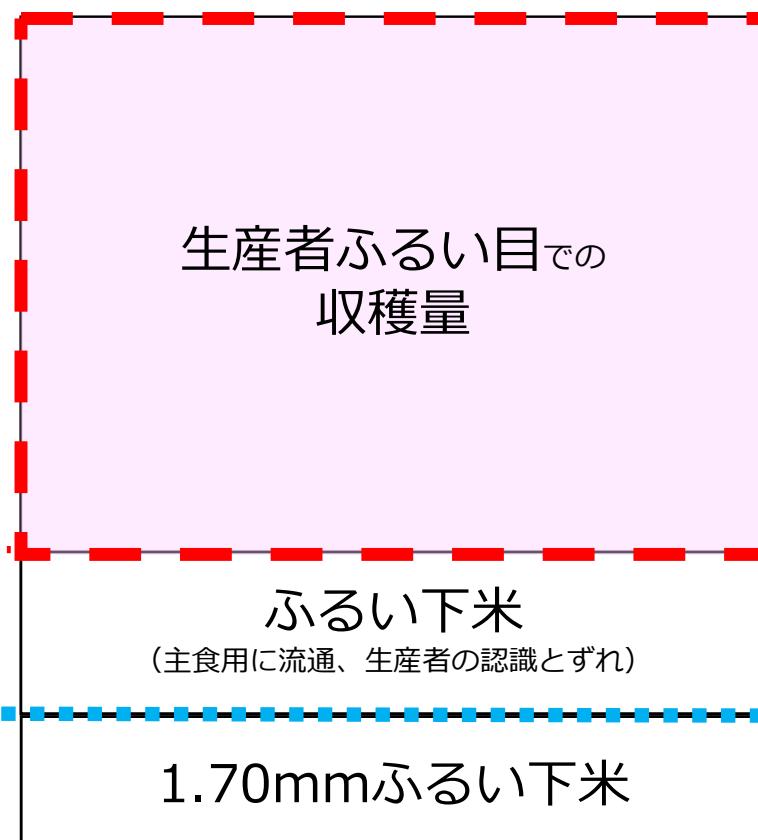
- 水稻収穫量調査については、統計値が生産現場の実感とかい離があるとの声が多く、生産者の方々や生産者団体、地方自治体と意見交換を実施し、要因を把握。収穫量、作況指数などについて様々なご意見。
- 令和7年産より生産現場の認識を踏まえ、ふるい目を見直し、新たに生産者ふるい目での主食用収穫量を公表。

○ふるい目幅の見直し（10月10日公表分～）

生産現場の認識を踏まえ、都道府県ごとに最も使用されている**生産者ふるい目（1.85、1.90mm等）**で新たに主食用**収穫量を公表**しつつ、引き続き**1.70mmの収穫量も公表**。

生産者ふるい目
（1.85mm等）

1.70mm



水稻収穫量調査の見直しについて（作況単収指数等）

- 令和7年産より作況指数について、近年の高温等気候変動を十分反映するとともに、収穫量全体を対比したものでないことを明確化した指標である作況単収指数に移行。
- また、高温等が米の供給量に影響を与え得ることを踏まえ、坪刈りサンプルから把握できる白未熟粒や着色粒等の割合を参考情報として提供。

○作況指数から作況単収指数に移行（10月10日公表分～）

旧

～令和6年産

作況指数

収穫量全体を平年と比較した
ものとの認識が多い

$$= \frac{10\text{a当たり収量}}{10\text{a当たり}\textbf{平年}\text{収量}} \times 100$$

(過去30年のトレンド)

直近の収量と比較する生産者の実感とズレ

新

令和7年産～

作況単収指数

収穫量全体を対比したものでないことを明確化

$$= \frac{10\text{a当たり収量}}{10\text{a当たり}\textbf{平均}\text{収量}} \times 100$$

(前年産までの5年中3年平均)

○白未熟粒、着色粒等の割合公表（11月18日公表分～）

坪刈りしたサンプルを器械にかけ、**白未熟粒、着色粒、胴割れ粒等の割合**を生産者の選別によってははじかれることとなる米の割合の**参考情報として公表**。

精度向上に向けた取組について

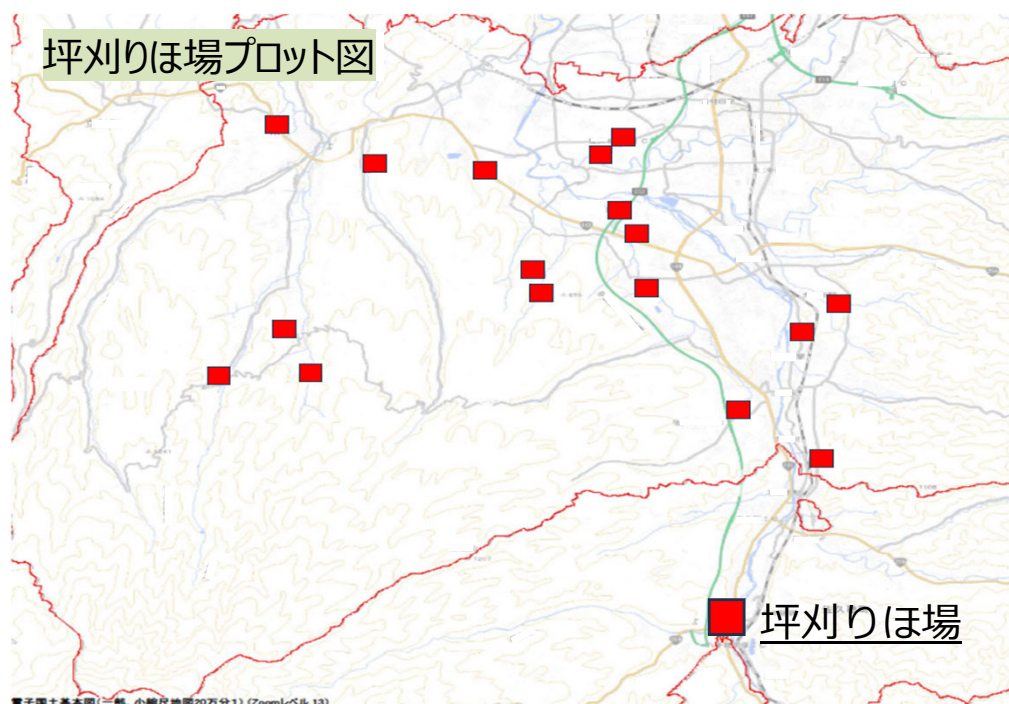
- 令和7年産から、坪刈りほ場の場所を関係機関に情報提供し、気象や病虫害の被害情報等をきめ細やかに収集し、調査結果に反映することで、調査精度を向上。
- また、人工衛星データ・AIを活用した収量予測のための実証研究を新たに実施し、将来的な日本全国全ての作付地の人工衛星データを解析する全面積調査を志向し、収量把握の実証研究を実施。

○ 坪刈りほ場の場所を関係機関へ情報提供、被害情報等をきめ細かく収集

令和7年産から開始

地図に坪刈りほ場をプロットし、関係機関（県、JA、農業共済）に提供。

調査時期ごとの意見交換を通じて、坪刈り調査が実施されない地域の被害による減収を着実に把握し、調査結果に反映。



○ 人工衛星データ・AIを活用した収量予測

令和7年度

ITベンダーを公募し、ほ場毎の収量データを提供し、人工衛星データ・AIを活用した収量予測の取組を開始。

今後の実証研究の取組

令和7年度の取組結果を踏まえ、有望な技術について実証研究を実施し、予測精度を向上。

【収量予測モデルイメージ】

人工衛星画像やデータと、坪刈り調査結果をもとに収量予測モデルを作成し、水稻の収量を予測。

